

日 時：2011/12/12 18：00～20：30

対 象 町 名：門脇町二丁目、三丁目

総参加者数：262名（参加地権者数：201名／343名）

1 開会

2 挨拶：基盤整備課長

3 説明事項（45分程度）

◇地区の復興計画について

◇河川堤防整備・災害復旧の予定について

◇まちづくりと住宅の建設に関わる事業等について

4 意見交換（65分程度）

- ・住居系ゾーンの人も公営住宅に入居可能になるという話だが、入居の際、元の土地は買い取ってもらえるのか。
⇒住居系ゾーンの方は、基本にご自分で再建いただきたいと考えていますが、公共的な土地利用が検討できる範囲であれば、区画整理を行うことにより売却希望者を集約し、公営住宅の用地などとして買い上げることができるかもしれません。
- ・私の質問とはニュアンスが違う。我々はもともとの位置でたまたま公園・住居系ゾーンになった。望んだわけではない。住居系ゾーンに入ったがゆえに、自力再建を余儀なくされる方もいる。どうするか。
⇒黄色ゾーンは、自分の土地として自力再建することを基本としています。区画整理後、公共的に必要な用地があれば、買い上げるという方法もあります。
- ・今の仮設住宅の状況を見ると、旧町内会がまとまっているとは言い難い状況である。公営住宅に入居する際には、地域のまとまりに配慮してほしい。
⇒仮設住宅は緊急的に作られたため、そのような状況になってしまったことに心を痛めています。公営住宅や集団移転の際には、可能な限り配慮したいと考えていますが、かなりの難題です。
- ・来年の三月以降の河川堤防の工程について、わかる範囲で教えてほしい。
⇒用地・建物の調査を行います。おおむね来年の秋口までには皆様との協議が行えるのではないかと考えております。（下流）
- ・図面では、公園と住居以外に白い地域がある。何か。
⇒河川堤防の敷幅によって影響を受ける地域です。堤防の幅が決まっていないため、

このような表現をしています。

- ・公園内の従前地の買い取りは、場所によって価格が変わるか。
⇒国には被災前価格での買い取りができるよう、要望しています。各々の土地の形や道路への接し方によって価格は変わりますので、改めて評価させてほしい。
- ・住民が少なくなると、町丁目界が変わることになるのか。
⇒地区の皆さんと相談させてください。
- ・昨日テレビで見たのだが、岩手県の田老地区では、堤防を有しているがゆえに津波が来ても平気で車が道路を走っていた。高い堤防を構築することについて、どう考えるか。
⇒防潮堤の高さは、数十年確率の津波を勘案して、県が決定しました。ただし、石巻海岸は高潮の方が高いため、高潮の高さを基準に決められました。河川堤防も同様に、高潮で決めています。既存堤防までのすりつけについては、今後検討していきます。(下流)
⇒津波が来たら、まず逃げるということを我々全員がしっかりと後世に伝えていく必要があります。そのためにも、しっかりした高さの堤防を造ってもらえるよう、要望していきます。
- ・高盛土道路の高さは。
⇒標高 5.0m、地盤から 4m くらいです。
- ・新しい土地は代替地となるのか。
⇒国の事業制度上、借りていただくことが基本となります。
- ・配られた地図では細かな位置関係がわからない。もう少しきめ細かい地図を。
⇒住宅地図に記載してほしいというご要望もいただいておりますが、住宅地図はあくまで見取り図であるため、正確性に欠けるということで、張り出しの図面のような形になりました。
- ・防災行政無線が聞こえない。
⇒担当部局で防災体制の包括的な見直しを行っています。いただいたご意見も、持ち帰って報告いたします。
- ・とにかく計画を早く進めてほしい。
- ・墓地の再建にまで手が及んでいない。墓地は区画整理の対象に入るか。もしそうなら、事業の中で再建できるのでは。
⇒事業の実施に伴い、所有者の方と相談して進めていきたいと思っています。
- ・震災発生から 9 か月。行政の遅さに怒っている。説明会を開催するのも遅かった。計画にも具体性がない。国土交通省が高さの説明をしたが、なぜ資料に高さを入れない

か。また、現在の地区の状況がわからない。被災の状況がどうだったのか、現状を説明する資料がない。あまりにお役所仕事すぎるのではないか。

⇒お叱りはごもつとものことと思います。復興に必要な何千億という費用は、国からの支援に頼らねばなりません。三次補正予算が成立し、費用の目途がやっと立ったところで事業のお話をさせていただくことができるようになりました。堤防の高さも、わかり次第皆様にご報告いたします。地区の現状についても、次回、しっかりご報告したいと思います。

- ・八間道路を境界としているようだが、聖人掘を境にした方が、住宅が残る。その案について検討したか。

⇒道路などの位置で決めたのではなく、今次津波を前提として、大学教授やコンサルタントの協力によりシミュレーションを実施し、位置を決めました。南浜地区の場合、特定の箇所力が集中するため、波が高くなる傾向にあります。そのため、工業的な土地利用すらできない状況にあると判断しました。

- ・区画整理であれば、道路や公園のほか、保留地も設けるのだらう。減歩率はどのくらいか。この地区は古いまちで、一宅地の面積が50坪程度しかない。減歩されると、再建に苦勞する。

⇒組合施行の区画整理と異なり、市施行の今回の事業では保留地を設けません。減歩率も低くなるでしょう。一割程度だと思います。

- ・この地区は第一種住居地域。区画整理による用途の変更はあるか。仮に第一種低層住居専用地域になると、今の家が建たなくなる。

⇒周囲の用途地域との連担性を見ながら、用途を考えていきます。

- ・住居ゾーンは守られると言うが、高盛土と防潮堤がすべて完成しなければ安全ではない。整備には何年、何十年という時間がかかるだろう。公園ゾーンと同じように、買いつても良いのではないか。

⇒県は防潮堤を3～5年で整備すると言っています。高盛土道路は市事業ですが、地権者の皆さまとの交渉が早ければ、県と同じくらいのスピードで進められるでしょう。区画整理も同じです。5年以内の完了を目標にやっていきたいと思っています。やはり皆様との合意が必要な事業ですので、話し合いながら進めていきます。

- ・居住ゾーンの中で事業を営んでいるが、河川堤防の調査で移転が必要になったら、代わりの用地のあっせんはあるか。

⇒堤防用地となった住宅は、防災集団移転事業の対象になります。所有されている建物は住居と併用ですか？（はい）そうであれば、個別にご相談ください。

- ・借り上げ住宅の期限はいつまでか。市の方針を聞きたい。

⇒現行制度では2年間です。とても足りないので、国に延伸を要望しています。

- ・この地区はお年寄りの方が多く、今回の震災で亡くなった方も多い。亡くなった方の土地はどうなるか。

⇒所有者がなくなった土地については、関係者の追跡調査を行い、その方との交渉を行います。
- ・住居系ゾーンに家が建っている場合、壊さなければならないか。

⇒区画整理において移転が必要となるかどうか検討を行います。移転が必要な方については、協議を行い、了承いただいたのち、補償を行います。また、道路計画によってはそのまま残ることもできます。
- ・この地区の住民はどここの学区になるのか。

⇒教育委員会で PTA の皆さまに対して説明を行いました。次に、地区の方々にご説明すると思います。門脇小学校の学区は、石巻小学校区と統合されます。教育委員会から後日、ご報告させることになると思います。
- ・門脇小学校の跡地はどうなるか。文化センター、市立病院はどうなるか。

⇒小学校跡地については、教育委員会と協議して決めていきます。文化センター及び市立病院は、申し訳ありませんが、他部署で検討しているため、後で市として報告させていただきます。
- ・この地区も広い範囲で液状化（？）現象が起こった。土地を均さなくても良いのか。

⇒地質調査を行い、必要であれば、土質対策を行います。
- ・住宅の手直しについて、市を頼っても良いか。

⇒個人の土地のかさ上げについては、補助はありません。
- ・公共施設にあたった場合でも、区画整理で移転するのか。

⇒区画整理で一括して行います。
- ・今日は仙台から来た。この地区が新しいまちづくりによって発展できるよう願っている。「安全なまちづくり」という目標は非常に結構なことだが、火事などの日常的な防災、防犯などを考慮して調査設計を行っていただきたい。火災や防犯の問題について、住民にどのような手が差し伸べられるのか。今日の説明会では、人間道路を拡幅するような話が聞けることを期待していた。今日、この場で新しい道路の話が聞ければよかった。この地区は年寄りが多い。どう避難路を考えるか。若い人は走って逃げられるだろう。ただ、走れない人には車を使っても良いとしてほしい。逃げられる道路を造ればよい。そんな案を示してほしい。行政の方々も非常に苦勞されていると思う。今後ともどうぞよろしく申し上げます。

⇒大変貴重なお話をいただきました。ハードをいくら作っても、それに対応するソフ

トが充実していないと、まちは完成しません。本日ご提示した図面には、区画道路の線は入れていません。皆様のご意向をうかがう前だからです。今後、皆様の意向を基にモデルケースを作って、皆様にご提示したいと思っています。

- ・意向調査票を見てびっくりした。地番を書けとなっている。自分の地番を知っている人がどれだけいると思っているのか。一言、「わからない人は住所でも良い」となぜ入れなかったのか。
- ・大事なのはハードよりもソフト。防潮堤をいくら造ろうが、焼け石に水。地震が起こったらまず逃げる。私は、これを後世に伝えていく。堤防を造るよりも、歩いて山に逃げる道をいっぱい作ったらよいではないか。こんな計画をやってしまったら、不毛なまちになってしまう。みんな蛇田に行ってしまう。このあたりのバランスを取りながらやってほしい。北上川とともに生きてきたまちですよ！このままでは門脇町も南浜町も二束三文になってしまう。もっと夢のあるまちづくりを考えてほしい。
⇒我々も大津波を経験しました。亡くなられた方が大勢いらっしやったことをしっかりと受け止めなければならないと思っています。もう一度津波が来ても、だれも死なないまちにしようと計画しています。大事なお話としてしっかりと受け止めたい。
- ・高盛土道路の一部に集中してストレスがかかると言うが、なぜストレスがかかったかという説明がない。工業港を作ったがゆえに、日本製紙の方角から波が来たと思っている。ここを追われる人たちが、なぜここを追われるのかという説明がないではないか！
⇒第一の守りとして、7.2mの防潮堤を造る計画ですが、一気に津波が到来してしまいます。高盛土道路を5.0mにして、やっと水が止まります。
- ・公園にする必要はないんじゃないか。なぜ公園を造らなければいけないのか。納得できない人がいっぱいいると思う。この公園は、未来永劫公園なのか。将来、戻ってくることはできないのか。防御策を講じたうえで、戻ってこられる可能性はあるか。
⇒津波の浸水の危険性がある公園ではないかという議論もありましたが、避難ビルやソフト対策などにより避難していただきたいと思っています。将来まで残る公園として整備していきたいと考えています。
- ・今後、半年くらいの具体的なスケジュールはどうなっているか。来年度のスケジュールは。今後3ヶ月くらいの見通しでも結構なので、この場で説明いただきたい。
⇒今後、工程スケジュールをお報せしていきたいと考えています。

以上